

九州・山口県の火山活動 (令和7年8月1日～9月22日)

令和7年9月22日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・諏訪之瀬島 活発な地震活動
- ・霧島山(新燃岳) 噴火活動が継続
- ・口永良部島 噴火警戒レベル1に引下げ

諏訪之瀬島

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲で警戒(大きな噴石)。

- ・9月17日20時頃から、主に島の西側で発生していると推定される火山性地震が増加し、震度5弱を観測するなど地震活動が活発な状態。
- ・御岳火口の噴火活動に、特段の変化は認められない。

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

新燃岳火口から概ね3kmの範囲で警戒(大きな噴石:火口から概ね3kmまで、火砕流:火口から概ね2kmまで)。

- ・火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は概ね多い状態で経過。
- ・GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃からは停滞。

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和7年9月22日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

▲噴火警報発表中の火山

▲噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)

△噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)

薩摩硫黄島

噴火警戒レベル2

口永良部島

噴火警戒レベル1

9/5: 噴火警戒レベル3→2

9/19: 噴火警戒レベル2→1

諏訪之瀬島

噴火警戒レベル2

9/18、19:

解説情報 頻度を上げて発表

雲仙岳

鶴見岳・伽藍岳

九重山

阿蘇山

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)

霧島山(大幡池)

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3

8/10、28:

解説情報 頻度を上げて発表

霧島山(御鉢)

桜島

噴火警戒レベル3

8/20-28:

解説情報 頻度を上げて発表

0 10 50 100 km

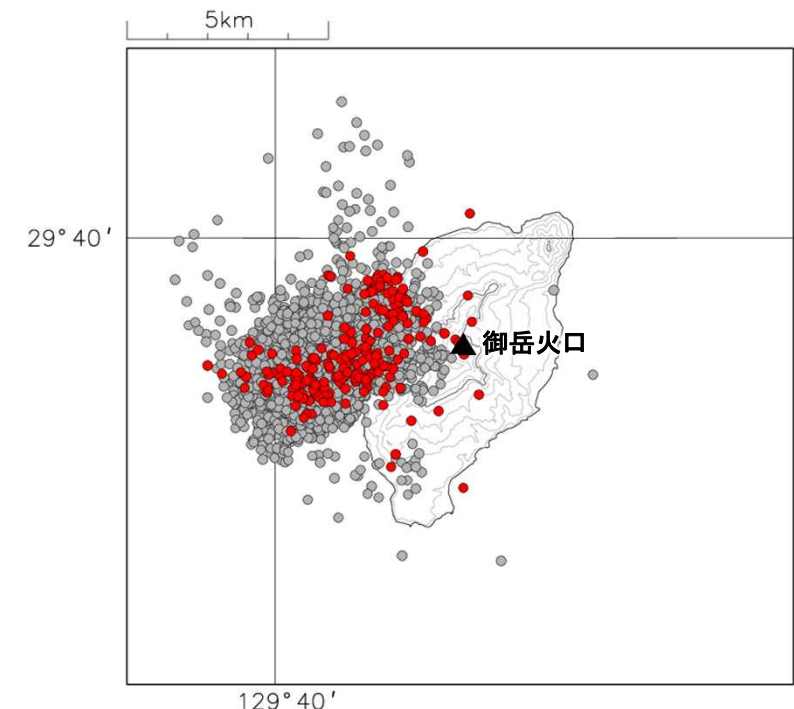
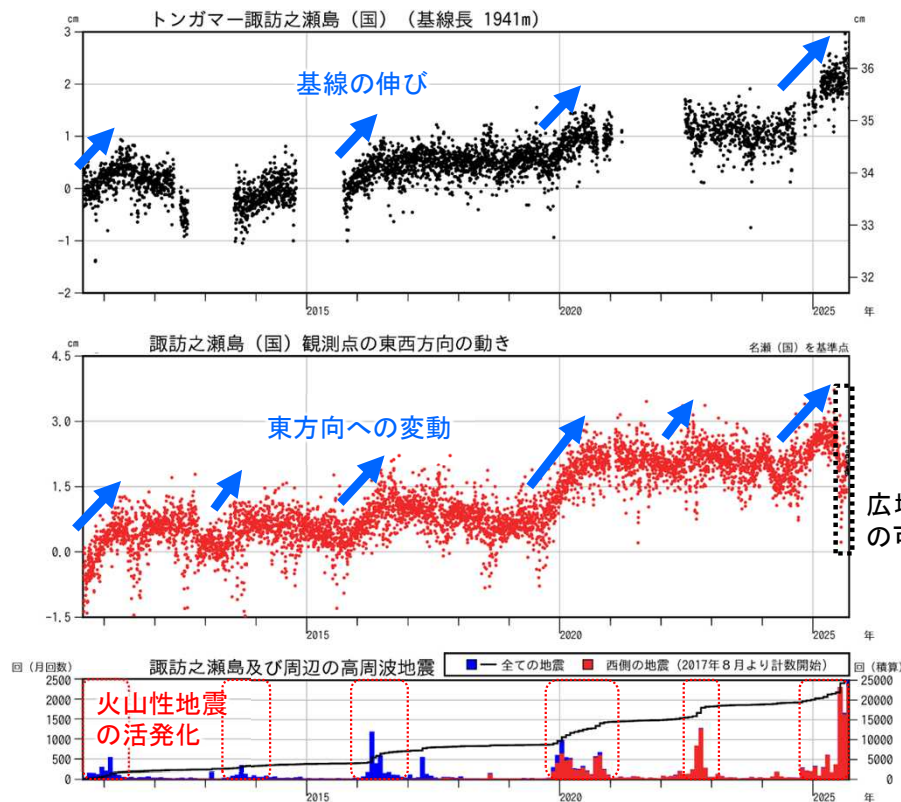
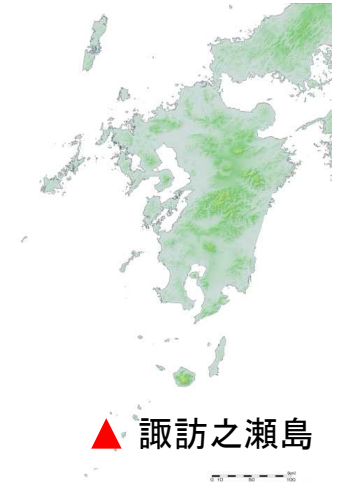
諏訪之瀬島 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

■ GNSS連続観測

- 2024年10月以降、諏訪之瀬島の西側やや深部におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められる。

■ 火山性地震

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は、中長期的には2024年10月頃から増加傾向がみられている。
- 9月17日20時頃から主に諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震が増加しており、同日21時55分に発生した地震では、島内の震度観測点で震度5弱を観測した。



震央分布図
(2017年1月1日～2025年9月18日)

● : 2025年9月17日～18日の震源
● : 2017年1月～2025年9月16日の震源

2010年8月1日～2025年9月18日

諏訪之瀬島

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

■ 噴火・爆発

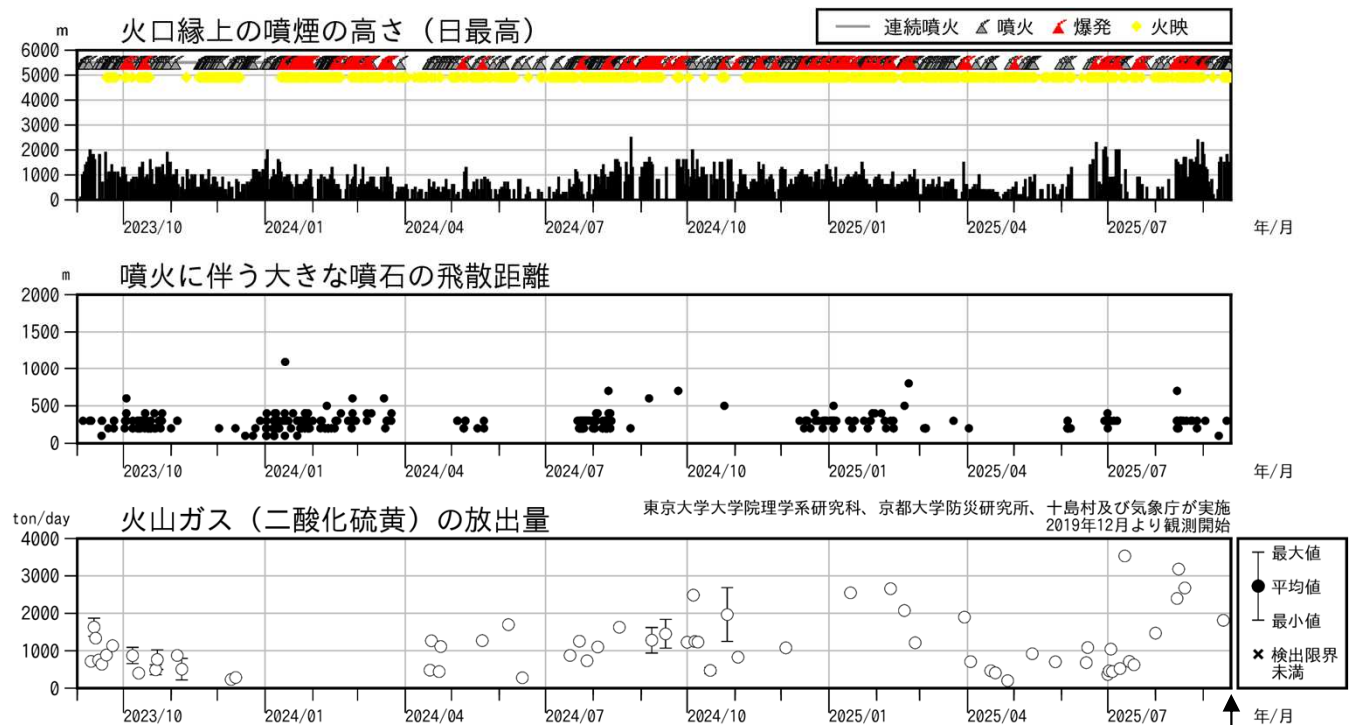
- 御岳火口では、噴火活動が継続している。
- 8月15日00時23分に発生した噴火では、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口中心から約700mまで飛散。

■ 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量

- 火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたりの放出量は、900～3,200トンと概ね多い状態で経過。



8月15日の噴火活動の状況



2023年9月1日～2025年9月18日

グラフ期間外
9/21 900トン/日

諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

- : 一般道
- : 登山道
- : 御岳火口
- : 居住地域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

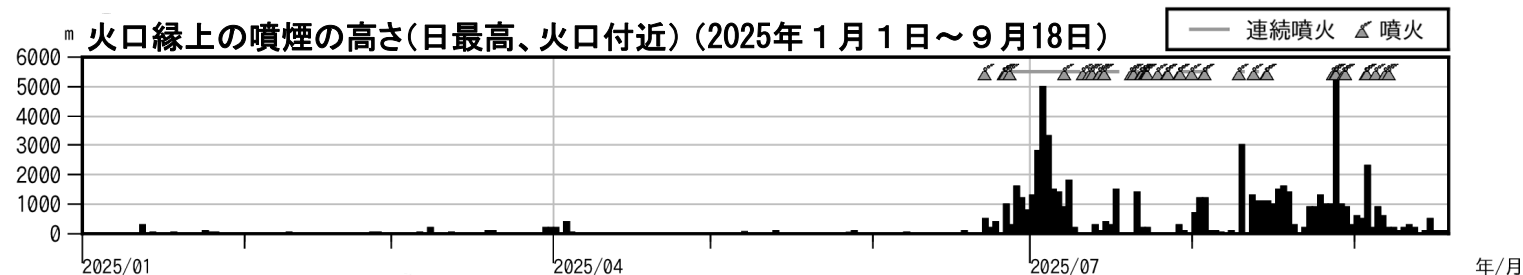
霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

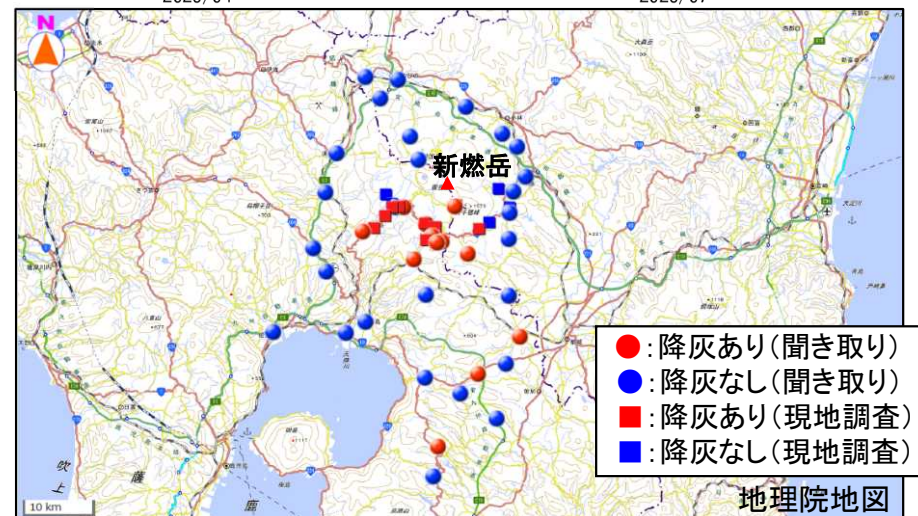
■ 噴火活動

- 6月下旬から噴火活動が継続。
- 8月10日05時23分の噴火では、噴煙が火口縁上3,000m以上まで上がる。
- 8月28日04時53分の噴火では、噴煙が火口縁上5,500mまで上がる。
- 9月3日11時27分頃と13時00分頃の噴火では、噴煙が火口縁上2,300mまで上がる。
- 産業技術総合研究所(※)によると、7月2日頃以降の火山灰には、今回新たに供給されたマグマの可能性がある粒子が少量含まれており、8月28日の噴火に伴う火山灰では、そのような粒子の割合が全体の1割程度とやや増加していた。

※産業技術総合研究所・地質調査総合センター「霧島山新燃岳2025年噴火に関する調査結果」
<https://www.gsj.jp/hazards/volcano/kirishima/index.html>



8月28日04時53分に発生した噴火の状況



降灰分布図(8月28日)

現地調査では、鹿児島県霧島市及び宮崎県都城市のそれぞれ一部で、道路の白線が見えにくくなるほどのやや多量の降灰を確認。聞き取りによる調査では、鹿児島県霧島市、曾於市、鹿屋市、宮崎県都城市のそれぞれ一部で降灰を確認。

霧島山(新燃岳)

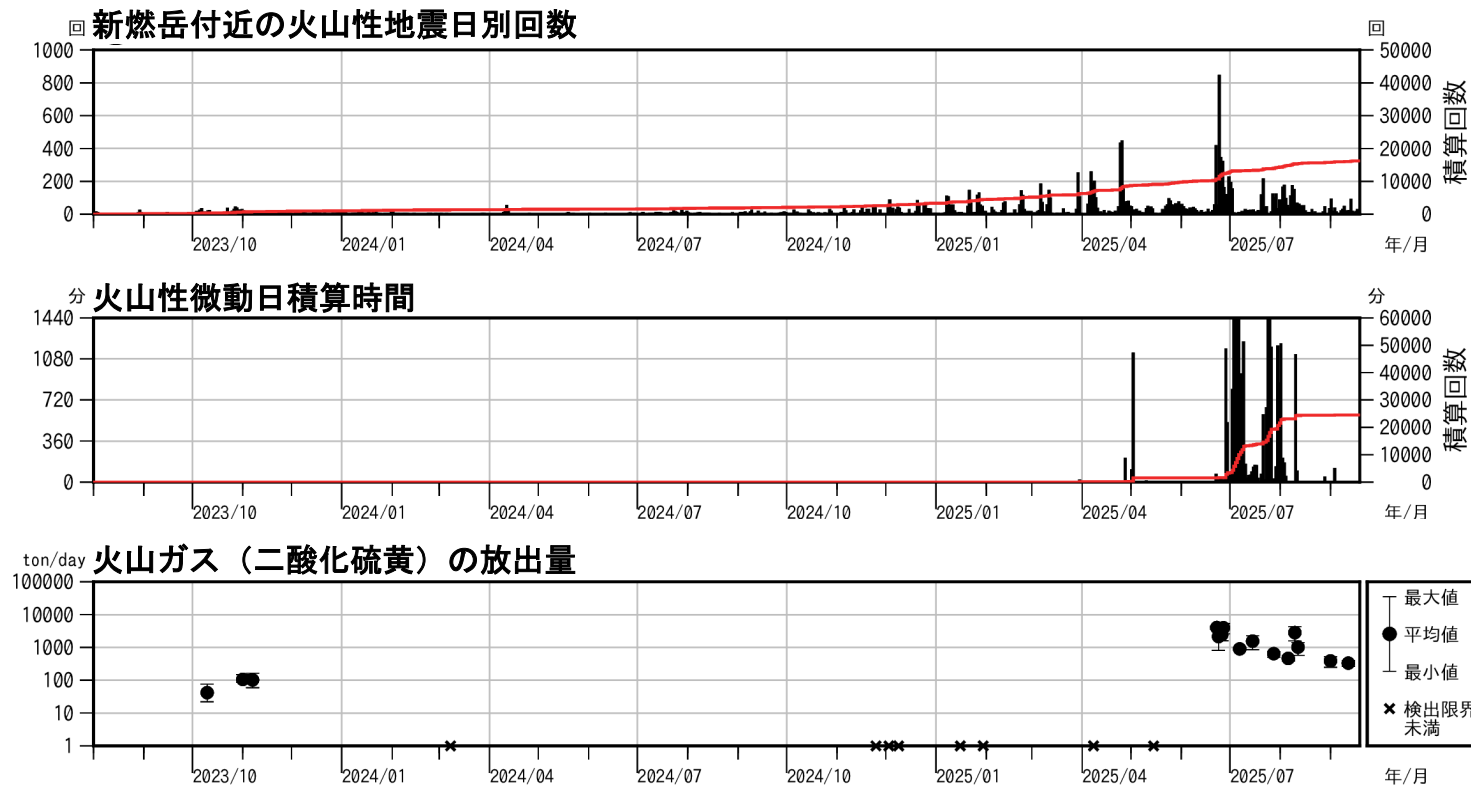
噴火警戒レベル3(入山規制)

■ 地震、微動

- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返し、期間内は概ね多い状態で経過。
- 7月上旬頃から噴火活動の活発化とともに噴火に伴う火山性微動を断続的に観測したが、8月上旬からはその発生頻度が低下。

■ 火山ガス

- 火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたりの放出量は、8月は500~2,800トン、9月は300~400トンで経過。



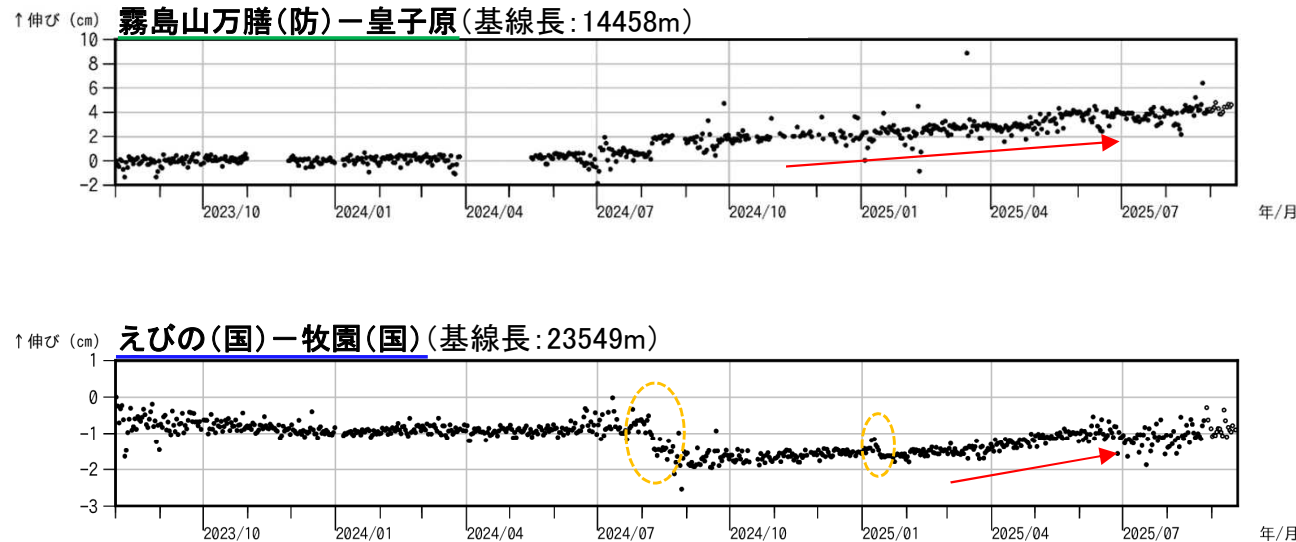
2023年8月1日~2025年9月18日

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

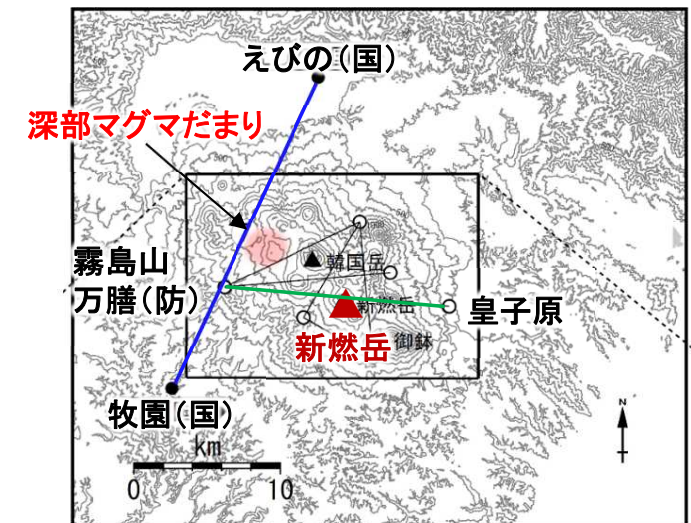
■ GNSS連続観測

- 霧島山を挟む一部の基線で、2024年11月頃から新燃岳付近の地下、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、7月上旬頃からはいずれも停滞。



2023年8月1日～2025年9月18日

※橙色破線内の変化は、日向灘の地震(2024年8月8日、2025年1月13日)による変動



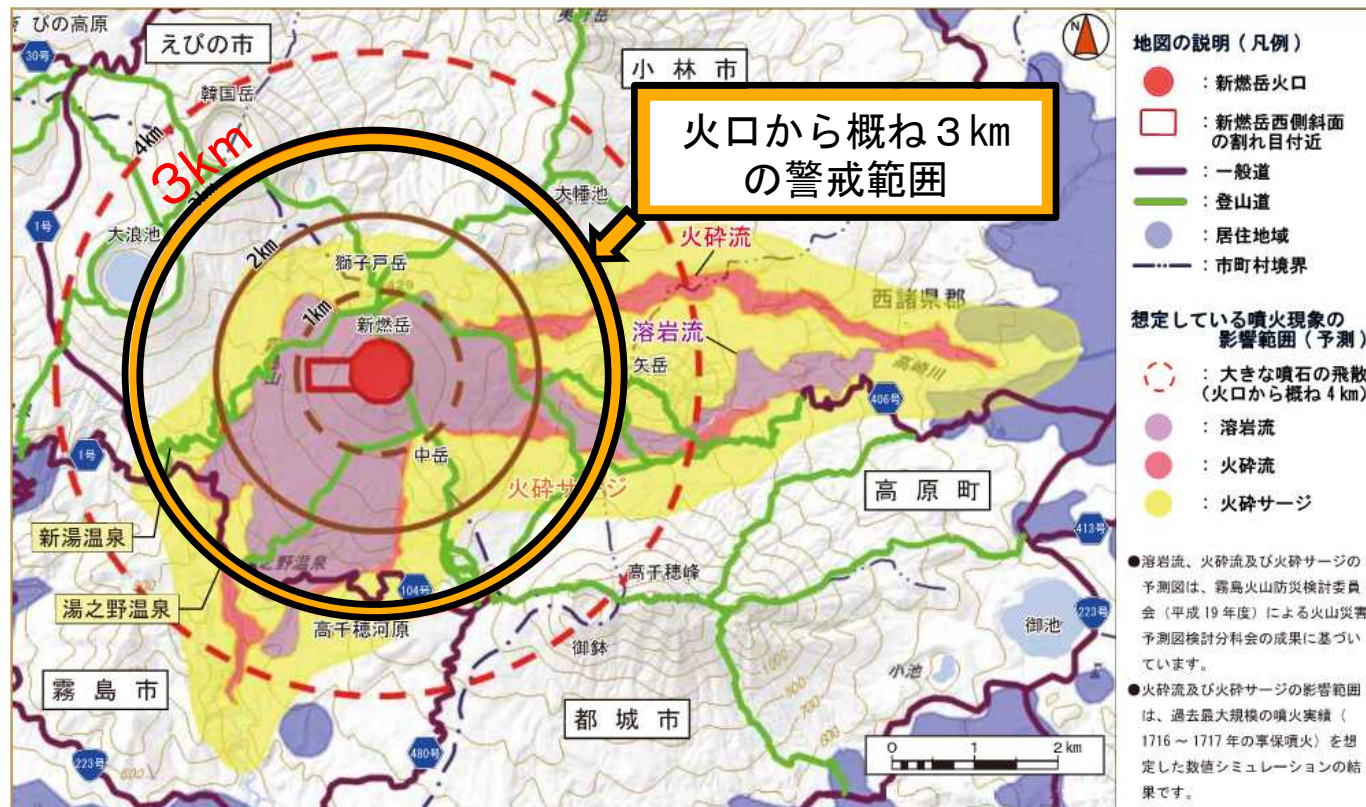
GNSS連続観測点と基線

霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。



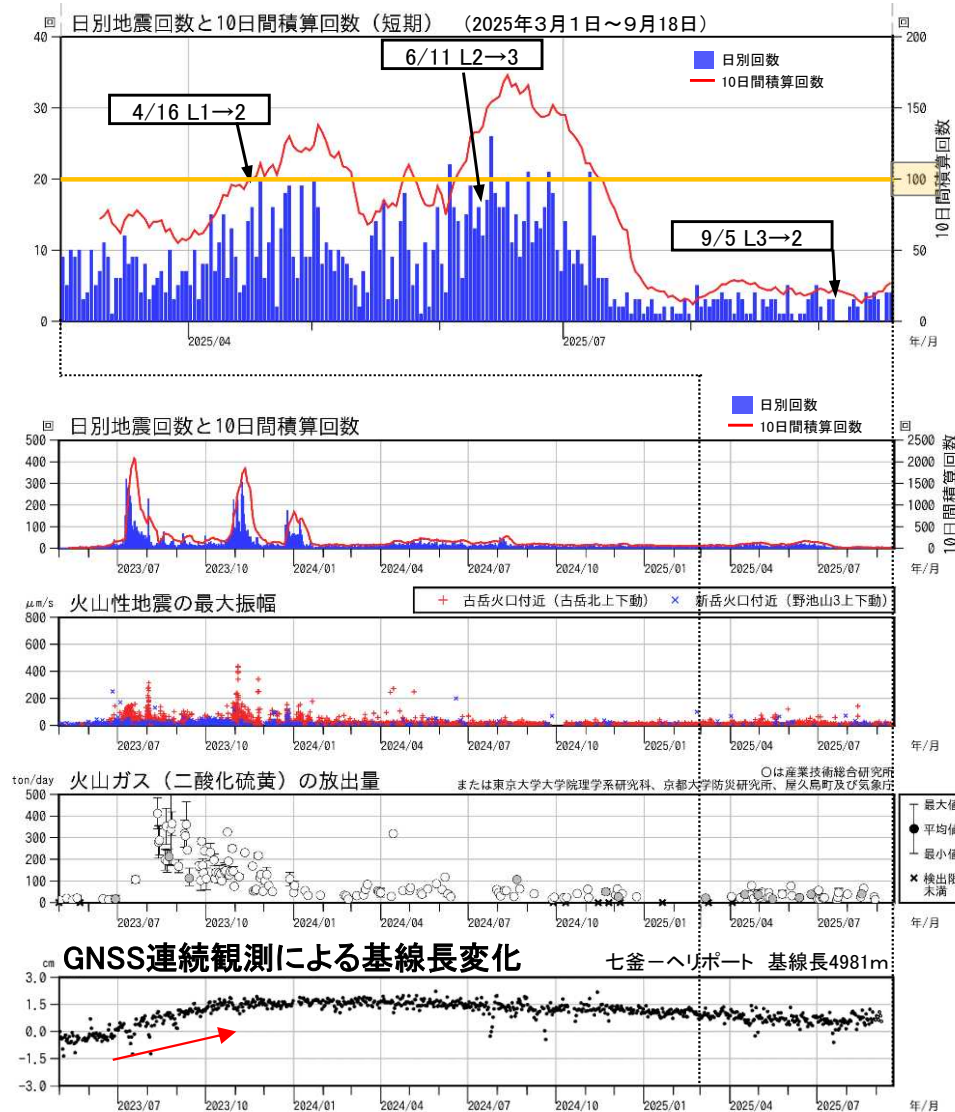
・ 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

・ 2011年と同様に爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

・ 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

口永良部島

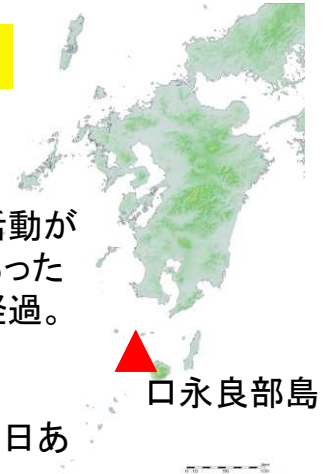
噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)



9/5 : 噴火警戒レベル3→2

9/19 : 噴火警戒レベル2→1

- 2025年4月から山体の浅い所で地震活動が活発化し、火山性地震が多い状態であったが、7月頃から減少し、少ない状態で経過。振幅の大きな地震は発生していない。
- 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1日あたり20~70トンと少ない状態。
- GNSS連続観測では、2023年6月下旬頃から10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動(赤矢印)が観測されているが、その後更なる膨張を示す変化は認められない。



GNSS基線長図(左下図)の基線を赤線で示す。

火山活動経過図

(1段目: 2025年3月1日~9月18日、
2~5段目: 2023年5月1日~2025年9月18日)

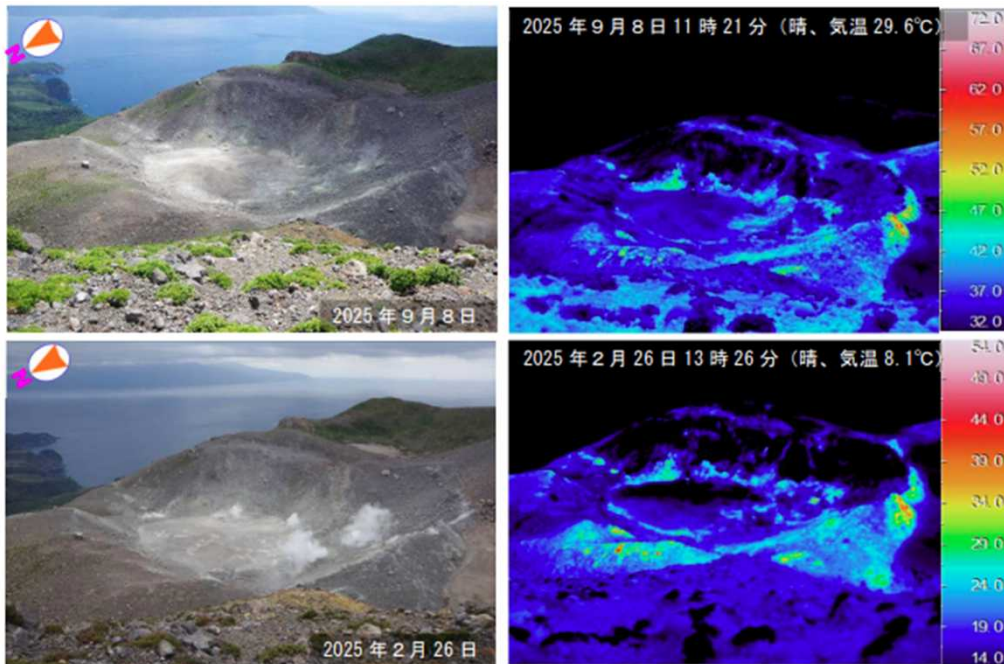
口永良部島

噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)

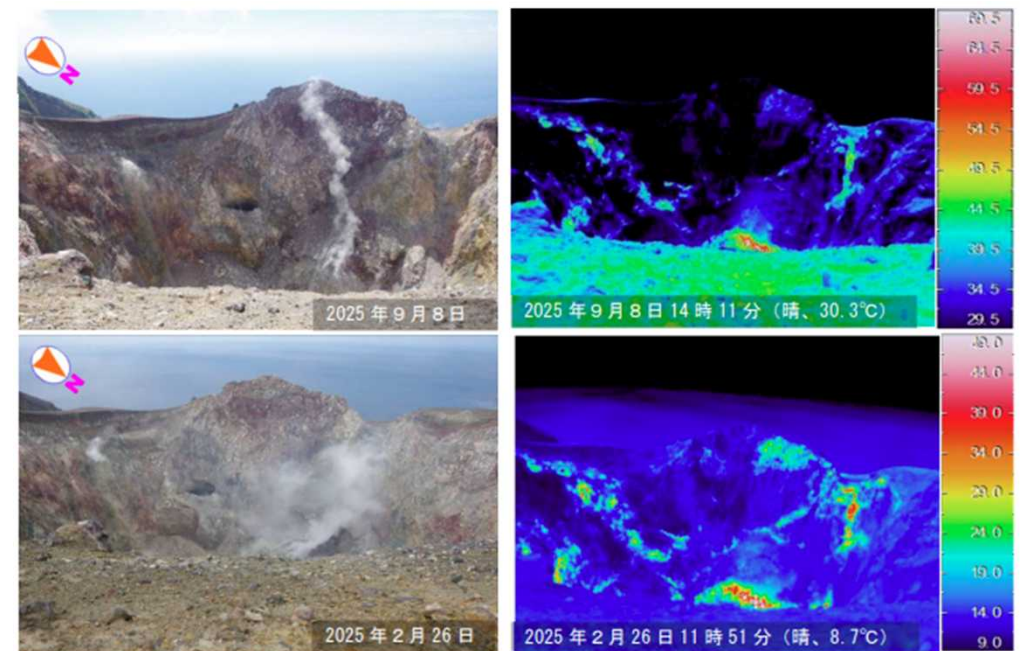
山上での現地調査

- ・9月8日に山上での現地調査を実施。
- ・新岳及び古岳の火口内や周辺で地熱域を引き続き確認したが、特段の変化は認められなかった。

古岳火口



新岳火口



火口の状況(山上での観測、2025年9月8日)

(左:古岳火口内の状況(古岳山頂から観測)、 右:新岳火口内の状況(新岳火口縁北東側から観測))

口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

警戒事項等

活火山であることから、新岳及び古岳の火口内では、火山灰等が噴出する可能性があります。また、新岳西側割れ目等の地熱域では、高温の噴気や火山ガス等に注意してください。



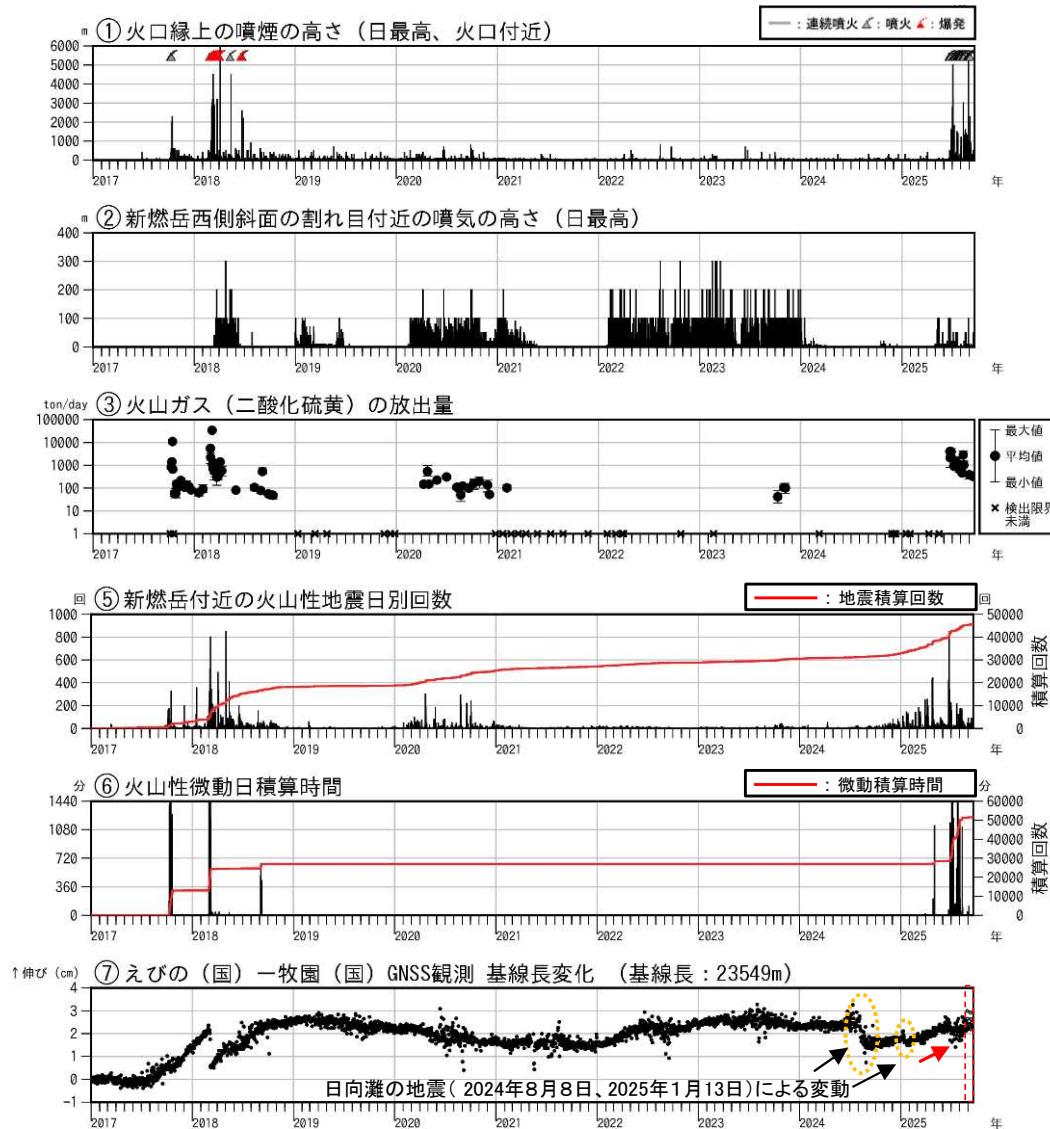
・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

新岳火口

古岳火口

以下、参考資料 (火山の活動状況、用語集など)

霧島山(新燃岳) 活動状況1



- ・新燃岳南西観測点の機器障害により、新燃西(震)観測点、霧島南(震)観測点及び高千穂河原観測点で計数している期間がある。
- ・⑦の基線の直近の8月下旬以降のデータ(赤破線内)は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがある。

＜2025年8月から9月18日までの状況＞

(9月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・新燃岳火口では、6月下旬から噴火活動が継続。噴煙は最高で5,500mまで上昇(8月28日)。
- ・新燃岳西側斜面の割れ目付近では白色の噴煙の高さは期間を通して100m以下で経過。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたりの放出量は8月は500～2,800トンと概ね多い状態、9月は300～400トンとやや少ない状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

- ・2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返していたところ、6月22日から急増し、7月上旬頃からは噴火活動の活発化とともに継続時間の長い火山性微動が断続的に観測されたが、8月上旬からはその発生頻度が低下。

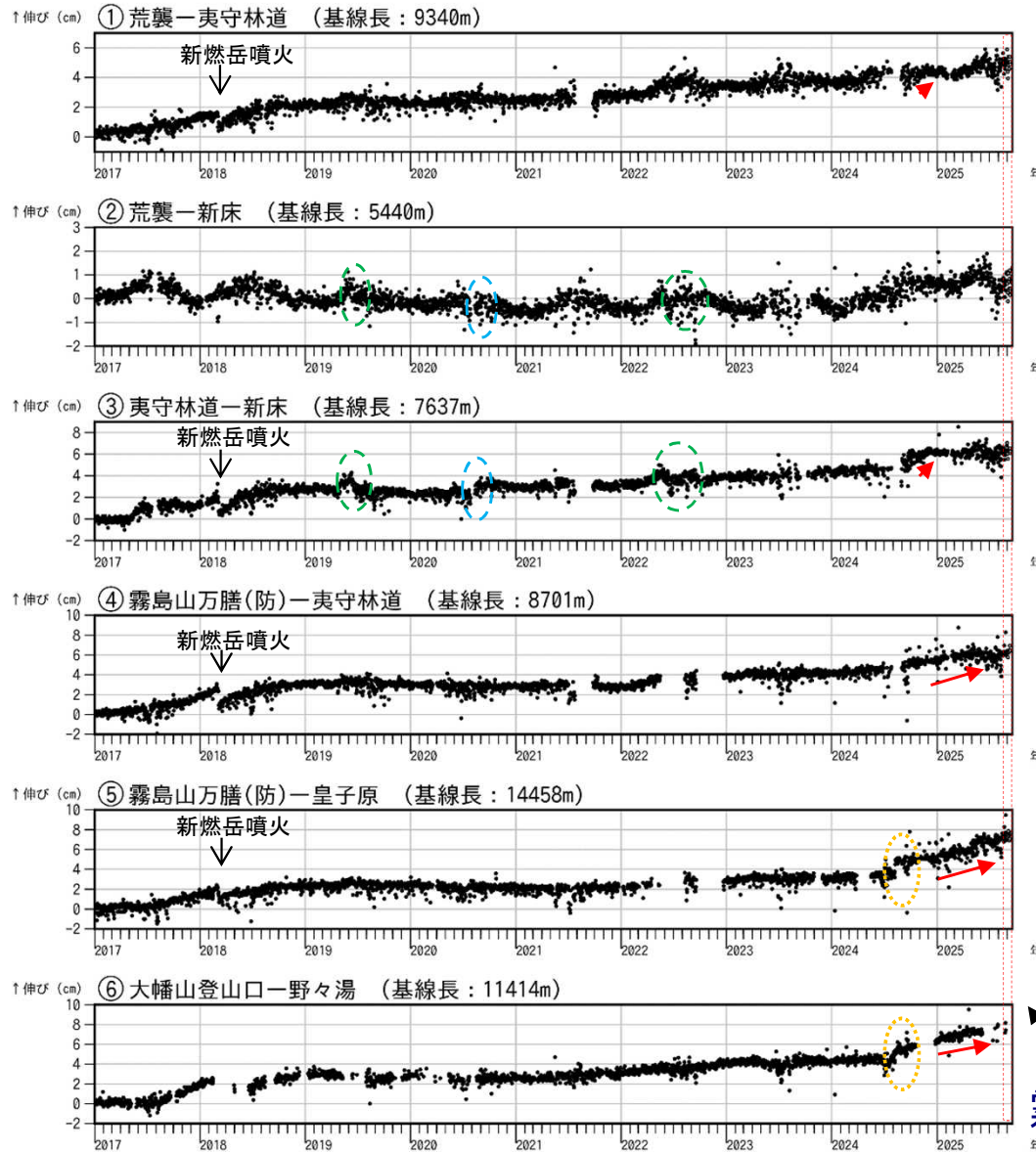
GNSS連続観測(広域)の状況

- ・霧島山を挟む一部の基線で、2025年3月頃から霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが(赤矢印)、7月上旬頃からは停滞。

霧島山(新燃岳) 火山活動経過図

(2017年1月～2025年9月18日)

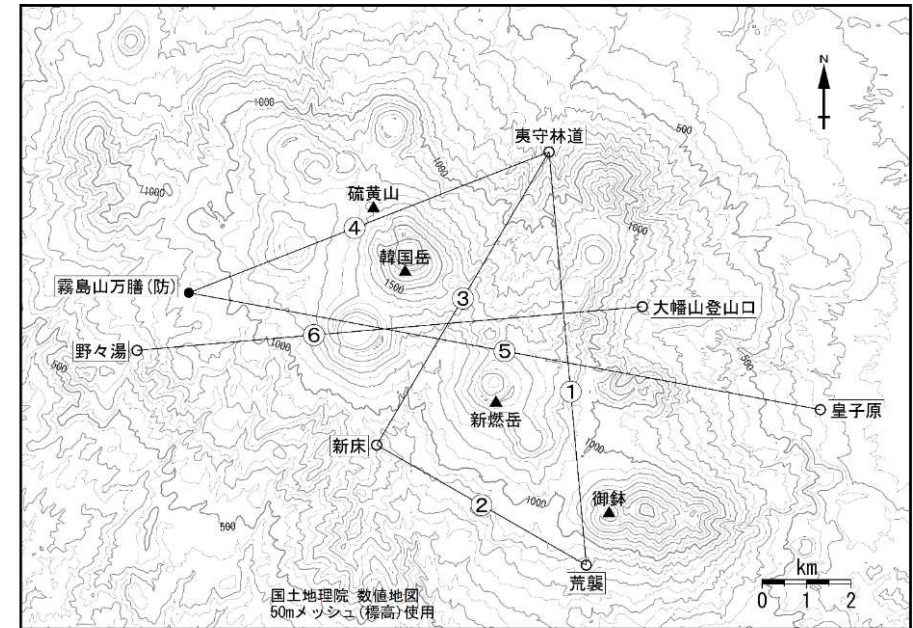
霧島山(新燃岳) 活動状況2



＜2025年8月から9月18日までの状況＞

GNSS連続観測(狭域)の状況

- 2024年11月頃から、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが(赤矢印)、7月上旬頃から停滞。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所

霧島山(新燃岳) GNSS連続観測点と基線番号

霧島山(新燃岳) GNSS連続観測による基線長変化 (2017年1月～2025年9月18日)

- 直近の8月下旬以降のデータ(赤破線内)は速報的な解析結果であり、再解析により修正されることがある。
- 基線の空白部分は欠測を示す。
- 緑色の破線内の変化は、新床観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる。
- 水色の破線内の変化は、新床観測点のセンサー台交換による局所的な変動による影響と考えられる。
- 橙色の破線内の変化は、2024年8月8日の日向灘の地震による変動。

桜島 活動状況1

8/20~28 : 火山の状況に関する解説情報 頻度を上げて発表

<2025年8月から9月18日までの状況>

(9月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・南岳山頂火口では、噴火が17回(8月:17回、9月:0回)発生。このうち爆発は1回(8月:1回、9月:0回)。噴煙は最高で火口縁上2,400mまで上昇。弾道を描いて飛散する大きな噴石は観測なし。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

降灰の状況

- ・鹿児島地方気象台(東郡元)では、8月に月合計 $2\text{g}/\text{m}^2$ (降灰日数5日)の降灰を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたりの放出量は1,900~3,300トンと非常に多い状態。
- ・2022年7月以降、概ね多い状態で経過。

火山性地震・火山性微動の状況

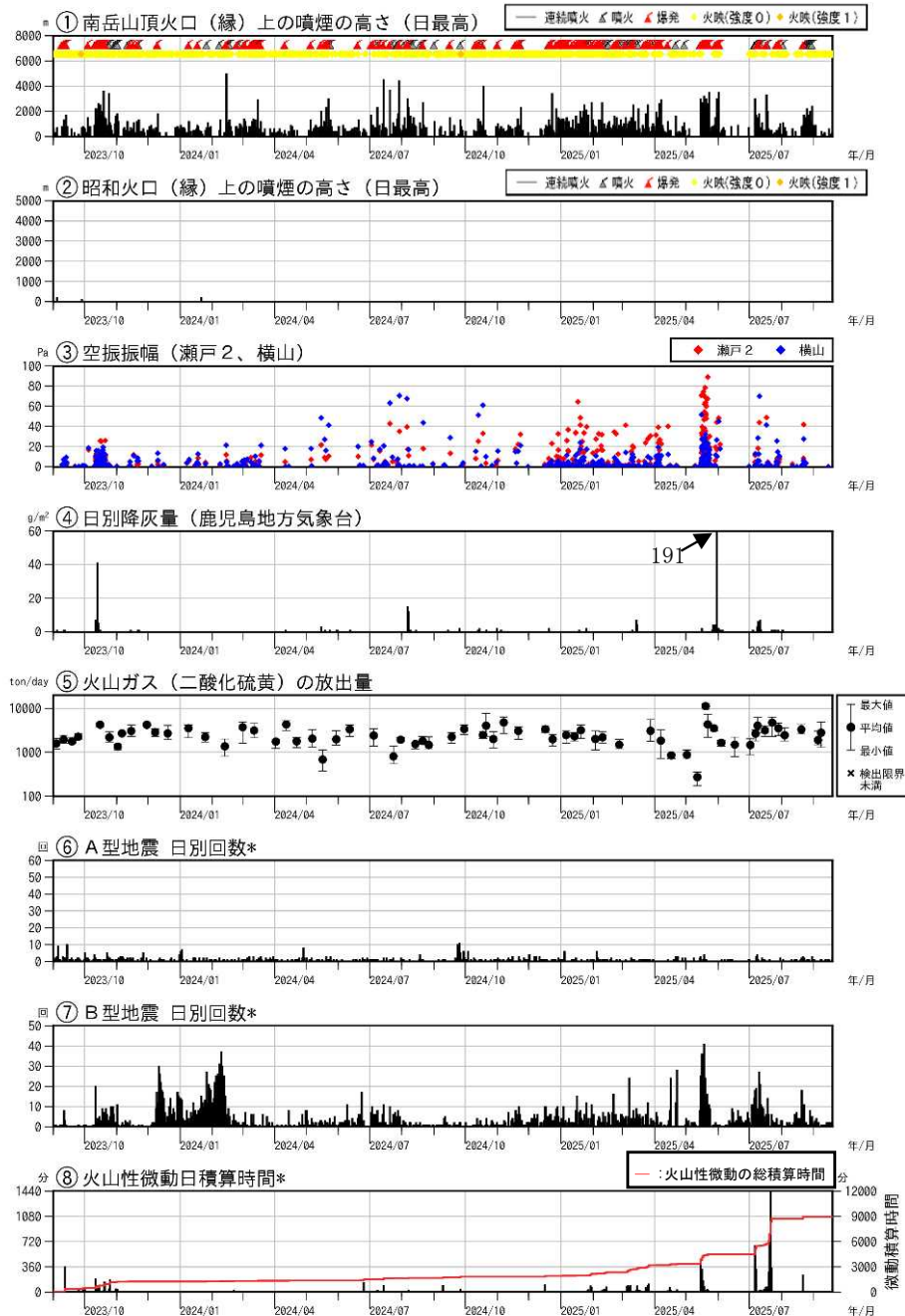
- ・火山性地震は少ない状態で経過。地震回数は、8月167回、9月75回。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。8月の月合計継続時間は4時間6分で、前月(7月:69時間50分)と比較して大きく減少。

←桜島 火山活動経過図

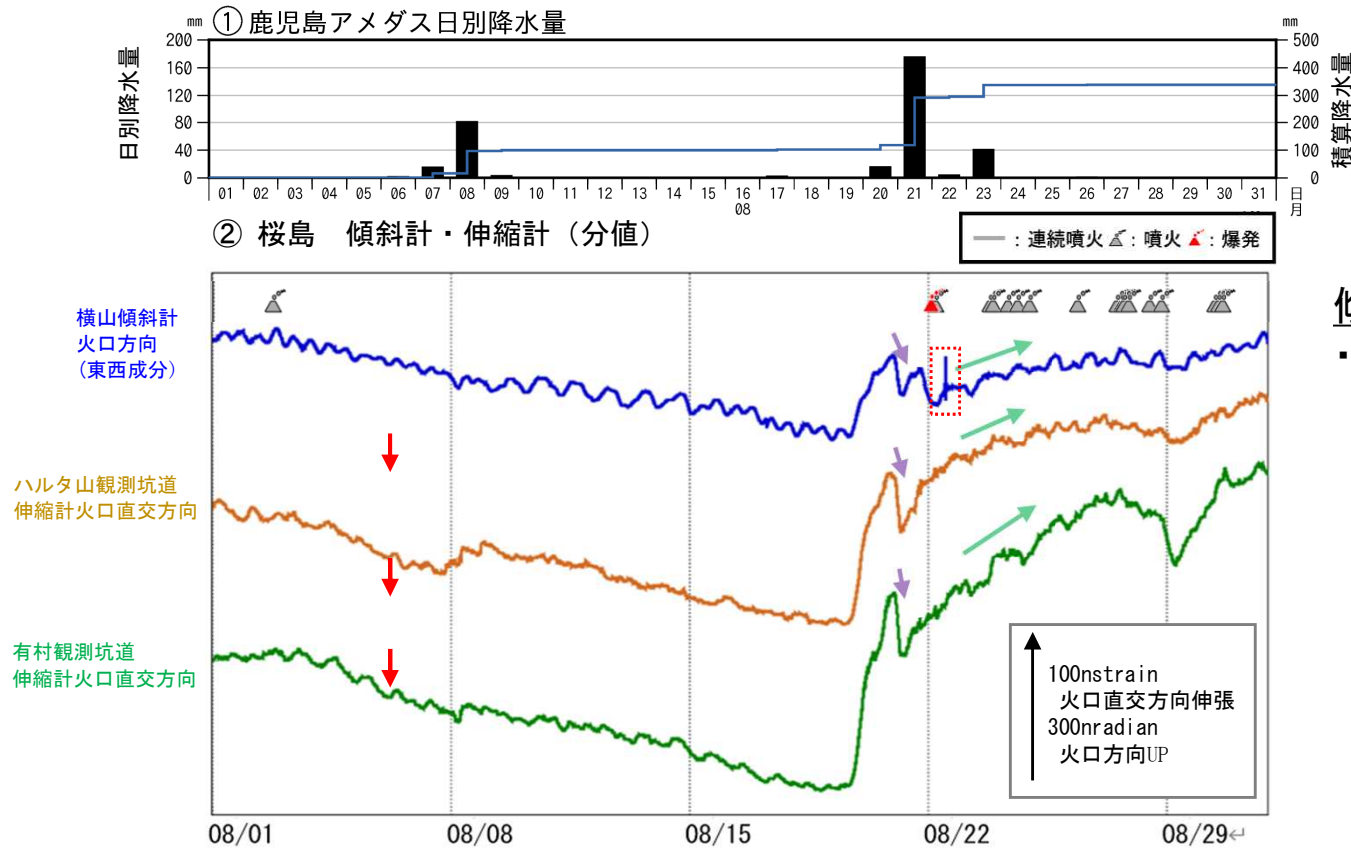
(2023年9月~2025年9月18日)

※①②では白色及び色不明の噴煙の高さは除く。

※①②で高感度の監視カメラでようやく認められる程度の火映(強度0)を黄色で、現地調査等において肉眼でようやく認められる程度の火映(強度1)を橙色で示す。



桜島 活動状況2



傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況
・8月19日16時頃から観測された山体膨張(隆起)は、21日未明から明け方にかけてわずかに収縮したが(紫矢印)、再び膨張(緑矢印)に転じた。その後たびたび噴火が観測されたが、噴火に伴う顕著な山体の収縮及び沈降は認められなかった。

桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況(2025年8月1日～8月31日)

※赤破線内で示す変化は、遠地地震の影響によるものと考えられる。

※横山観測点は山頂火口域のほぼ西に位置していることから、傾斜計東西成分の東側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示。

※各観測点のデータには、潮汐補正を行っている。

※図の作成には、大隅河川国道事務所の有村観測坑道及び京都大学のハルタ山観測坑道の観測データを使用。

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

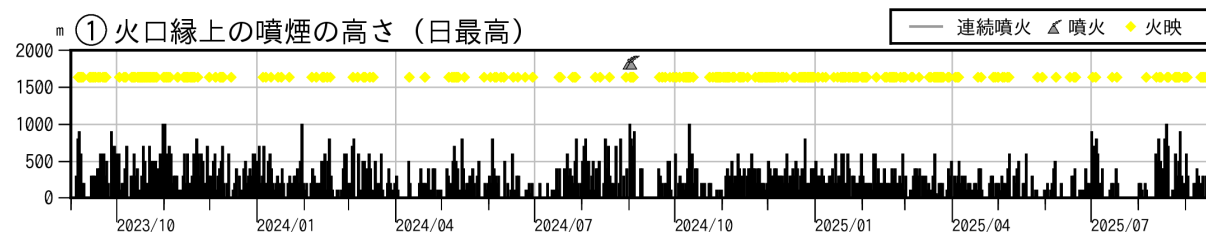


昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降灰状況により、降雨時に土石流が発生する可能性があるので留意してください。

薩摩硫黄島 活動状況

噴火警戒レベル2
(火口周辺規制)



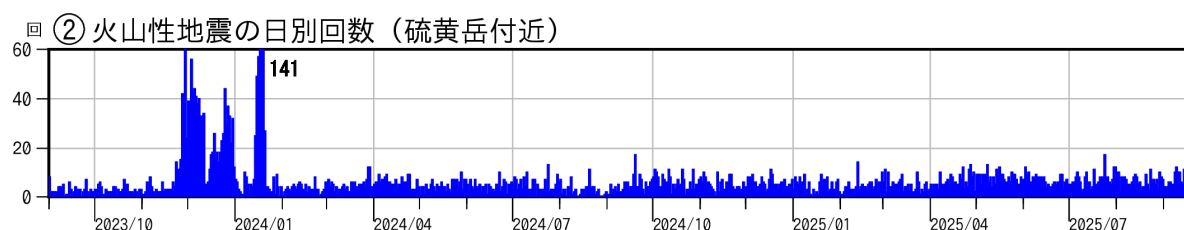
< 2025年8月から9月18日までの状況 >

(9月の回数等は速報値)

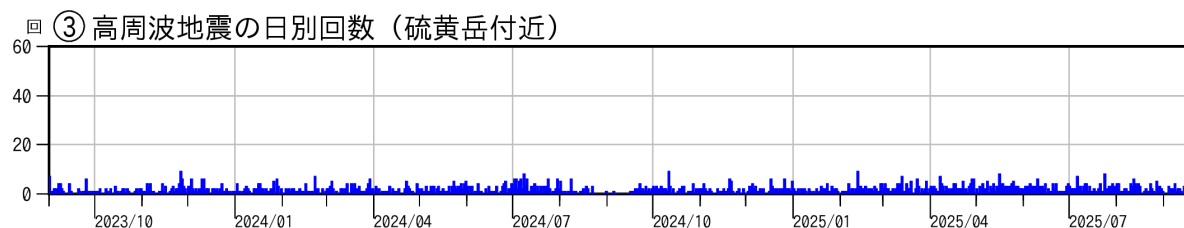
噴煙等の状況

- ・硫黄岳火口で、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

年/月



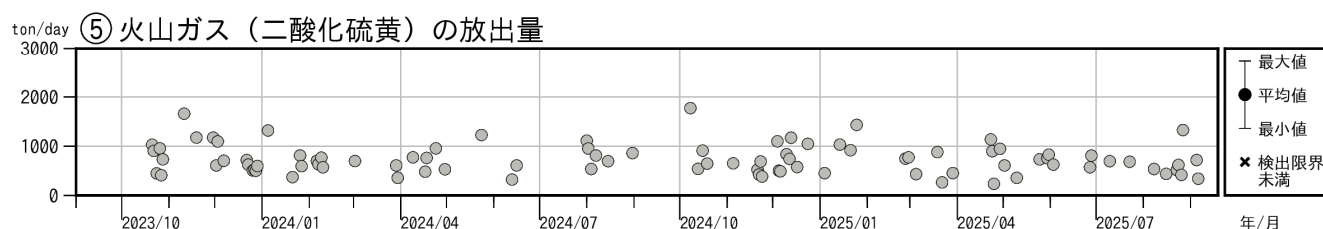
年/月



年/月



年/月



年/月

火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過(8月: 194回、9月: 122回)。このうち、高周波地震の月回数は8月69回、9月32回。
- ・火山性微動は観測なし。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたり300～1,300トン。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状況が継続。

薩摩硫黄島 火山活動経過図(2023年9月～2025年9月18日)

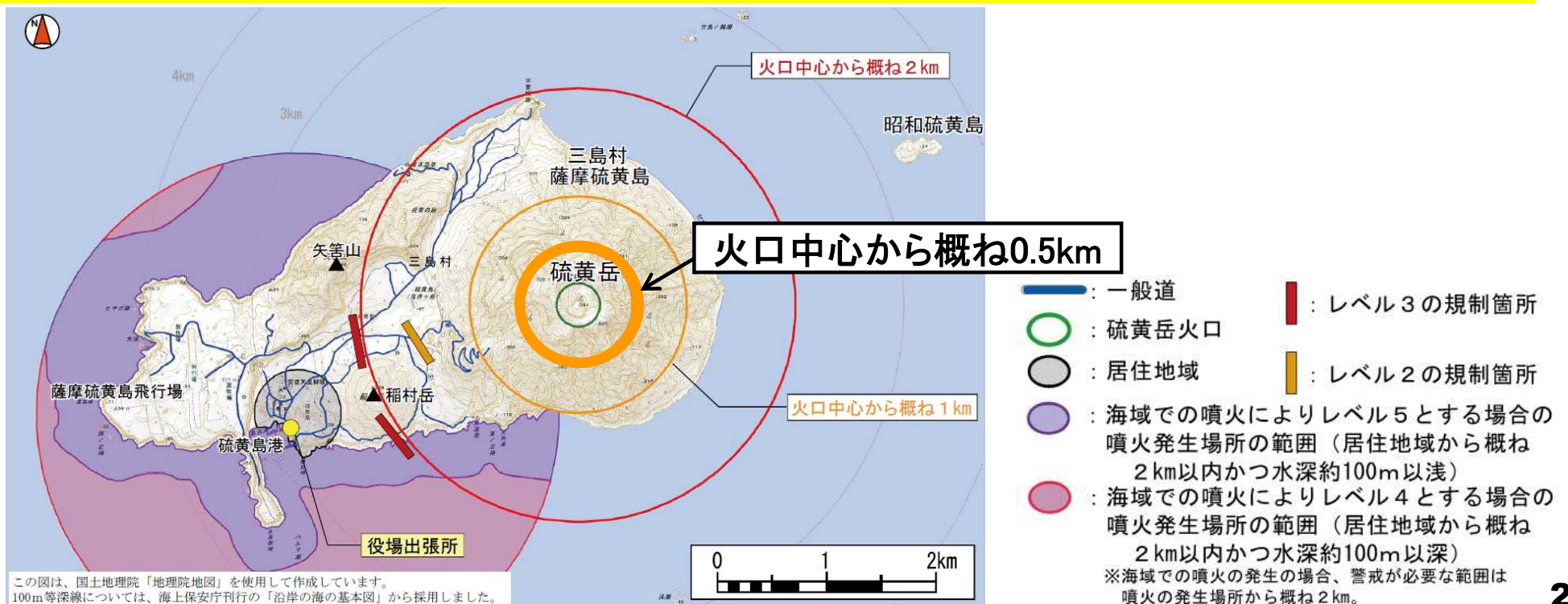
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



口永良部島 活動状況1

噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

＜2025年8月から9月18日までの状況＞

（9月の回数等は速報値）

噴煙の状況

- ・ 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上400mまで上昇。
- ・ 古岳火口では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は観測されなかった。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

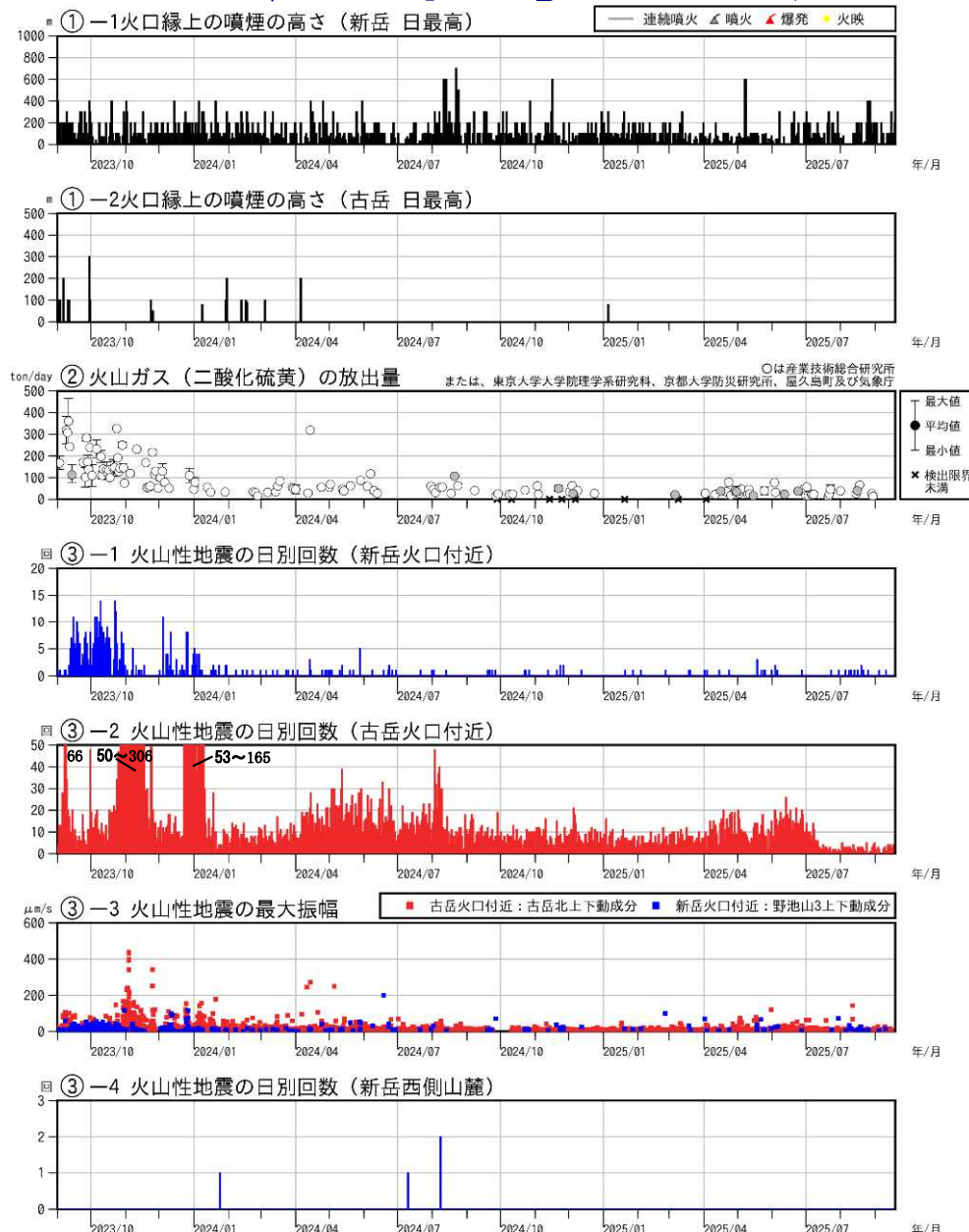
- ・ 1日あたり20～70トンと少ない状態。
- ・ 2024年8月以降は概ね少ない状態。

火山性地震の状況

- ・ 2025年4月から山体の浅いところで地震活動が活発化し、火山性地震が多い状態だったが、7月頃から減少し、少ない状態で経過。
- ・ 火山性地震は主に古岳火口付近で発生。新岳火口付近においても地震活動が継続。
- ・ 振幅の大きな火山性地震はなし。
- ・ 新岳西側山麓付近の地震は、観測なし。

表 地震回数(単位:回)

	6月	7月	8月	9月 (~18日)
古岳火口付近	434	134	66	35
新岳火口付近	4	2	9	2



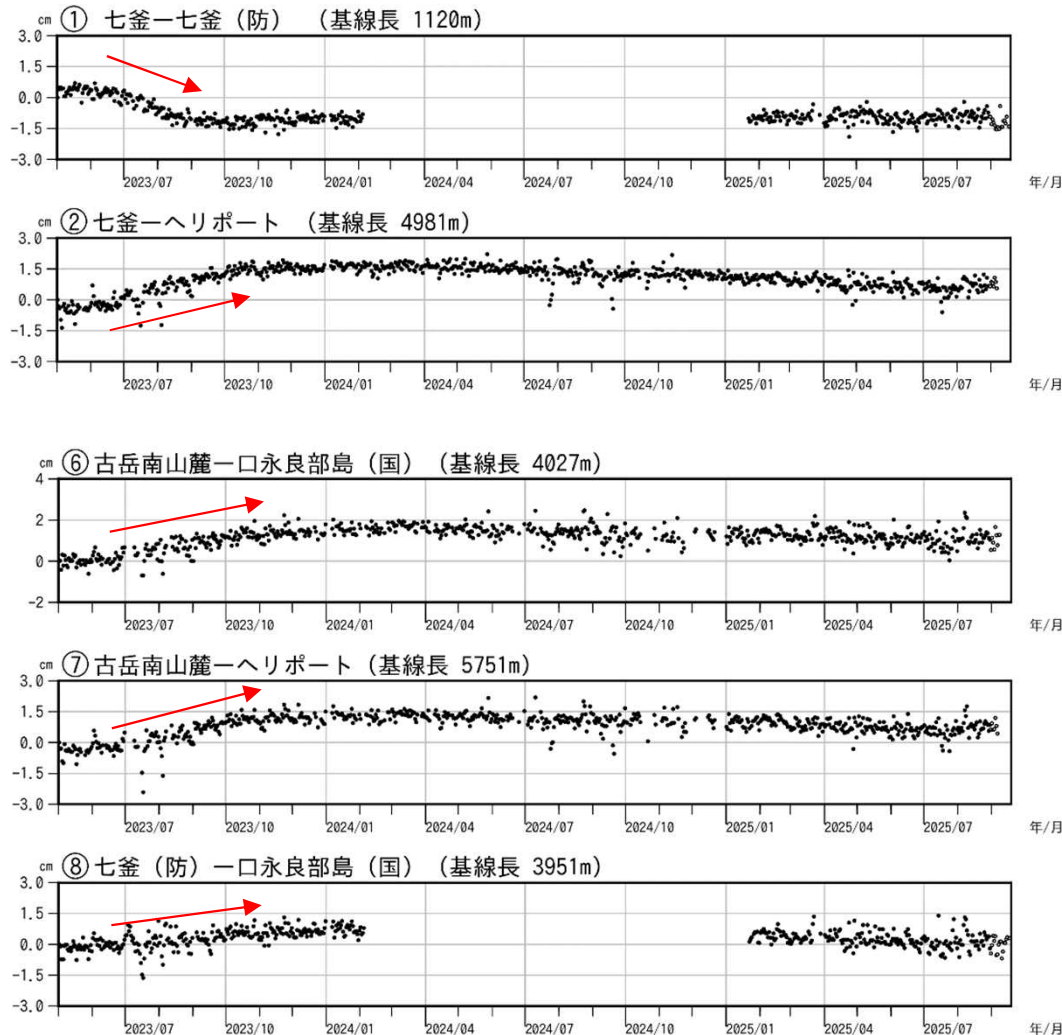
口永良部島 火山活動経過図
(2023年9月～2025年9月18日)

口永良部島 活動状況2

＜2025年8月から9月18日までの状況＞

GNSS連続観測の状況

- 2023年6月下旬頃から同年10月頃にかけて古岳付近の膨張を示す変動(赤矢印)が観測されているが、その後更なる膨張を示す変化は認められていない。



口永良部島 GNSS連続観測による基線長変化
(2023年5月～2025年9月18日)

GNSS連続観測点と基線番号

GNSS基線長図(左図)の基線を赤線で示す。
(国): 国土地理院 (防): 防災科学技術研究所

口永良部島 判定基準(レベル2, 3)

レベル	当該レベルへの引上げの基準	当該レベルからの引下げの基準
	【古岳火口から2 kmを超え概ね2.5km以内に影響を及ぼす噴火の発生】 大きな噴石が古岳火口から2 kmを超え概ね2.5km以内に飛散 以上の場合、火口から概ね2 km以内（古岳火口からは概ね2.5km以内）を警戒が必要な範囲とする。	「短期間での火山活動の高まり」によりレベルを引き上げた場合は、レベル3に達しない活動が概ね1ヶ月続いたとき、レベルを引き下げる。
3	【新岳及び古岳火口から概ね2 km以内（全方位）に影響を及ぼす噴火の可能性】 <短期間での火山活動の高まり> - 火山性地震の多発（30 回以上／時間、50 回以上／24 時間又は30 回以上／日が3 日以上継続） - 地盤変動（山体隆起の急速な地盤変動：新岳北東山麓観測点の傾斜計で数時間で1 μ rad 以上相当） ② <中・長期にわたる火山活動の高まり> 山体が膨張する地盤変動（傾斜計、GNSS）が発生している。又は2年以内に山体が膨張する地盤変動があり、その地盤変動が維持されている場合に以下の現象が一つでも観測された場合 - 振幅 20 μ m/s 以上相当（新岳北東山麓観測点地震計の上下動成分）の地震が30 日間に複数回あった場合 ② 10 日間（中期）の地震の回数が100 回以上かつ10 回以上の日が8 日間以上あった場合 - 火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が1 日あたり500 トン 以上が継続か、1,000 トン以上になった場合 【新岳及び古岳火口から概ね2 km以内（全方位）に影響を及ぼす噴火の発生】 - 火口から1 kmを超え概ね2 km以内に大きな噴石が飛散 - 噴火により、空振計で25Pa 以上を観測 - 火砕流が西側以外でも火口から1 kmを超えて流下 以上の場合、火口から概ね2 km以内を警戒が必要な範囲とする。	① 「中・長期にわたる火山活動の高まり」の基準に該当した場合、又はレベル4、5からレベル3に達しない活動が概ね2ヶ月続いたとき、レベルを引き下げる。 大きな噴石の飛散でレベルを引き上げた場合には、当該距離に影響する噴火が3日間程度発生しなければレベルの引下げを検討する。警戒が必要な範囲を拡大して対応した場合には、警戒が必要な範囲を縮小する。
2	【新岳及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性】 - ごく小噴火の発生 <短期間での火山活動の高まり> - 火山性地震の増加（10 回以上／時間、30 回以上／24 時間又は20 回以上／日が2 日以上連続した場合） - 火山性微動の多発（継続時間の積算（24 時間）が10 分以上） ① <中・長期にわたる火山活動の高まり> 10 日間（中期）の地震の回数が100 回以上 - 火口及びその周辺で地表面の熱が高まる、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が1 日あたり概ね100 トン 以上となるなど、火山活動が高まりつつある場合 【新岳及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の発生】 大きな噴石が火口から1 km以内に飛散、火砕流が1 km 以内（西側は新岳火口から2 km 以内）に流下する小噴火の発生	噴火の発生や「短期間での火山活動の高まり」によりレベルを引き上げた場合は、レベル2に達しない活動が概ね1ヶ月続いたとき、レベルを引き下げる。 ② 「中・長期にわたる火山活動の高まり」の基準に該当した場合は、レベル2に達しない活動が概ね2ヶ月続いたとき、レベルを引き下げる。

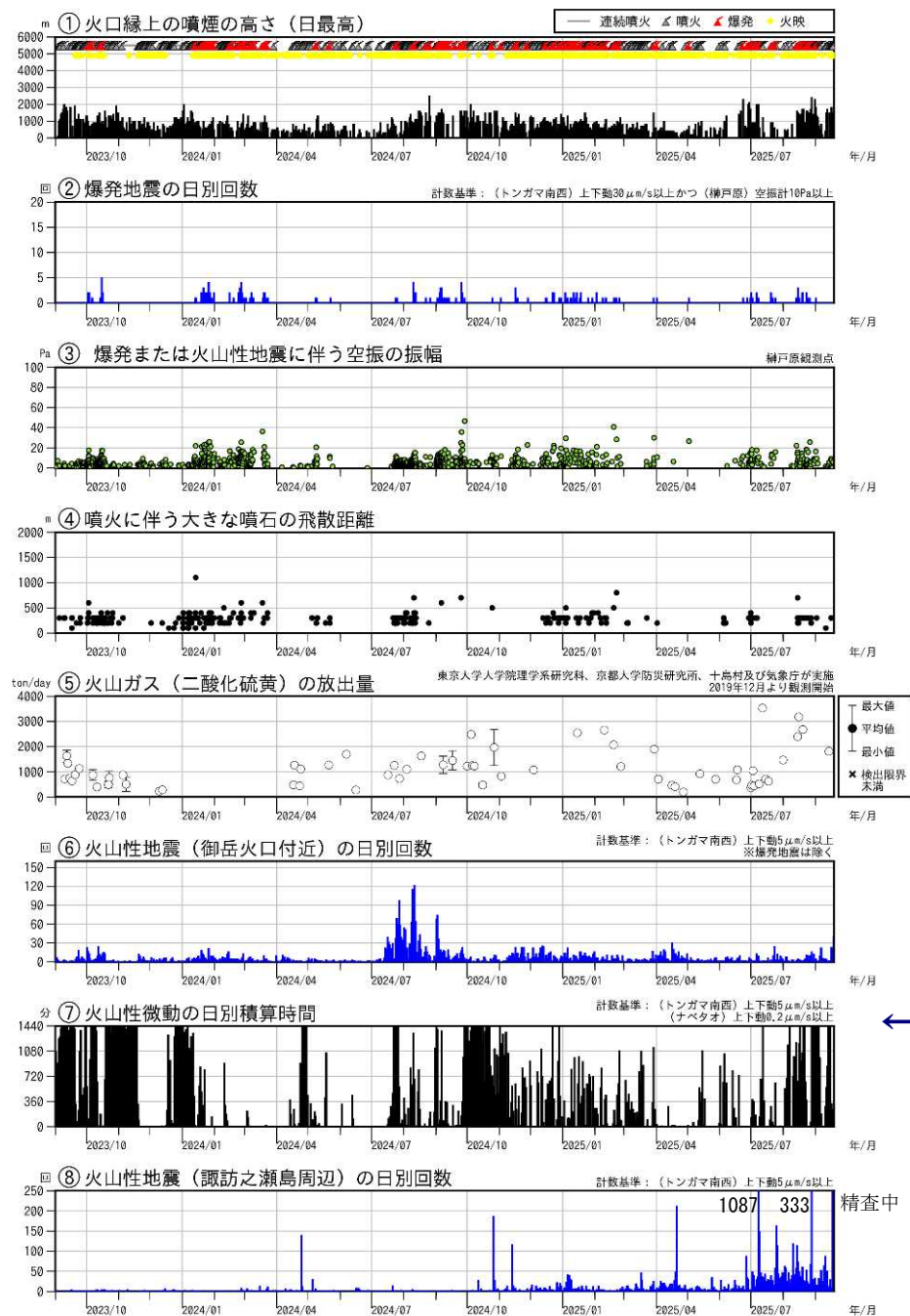
4/16 ①により、レベルを1から2へ引上げ

6/11 ②により、レベルを2から3へ引上げ

9/5 ①により、レベルを3から2へ引下げ

9/19 ②により、レベルを2から1へ引下げ

諏訪之瀬島 活動状況1 <2025年8月から9月18日までの状況>



噴煙等の状況

(9月の回数等は速報値)

- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上2,400mまで上昇。
- 爆発回数は、8月12回、9月1回。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約700m(8/15)まで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり1,500~3,200トンで経過。

火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は8月は1,630回で前月と比較し減少。中長期的には、2024年10月頃から島の周辺において火山性地震の増加傾向がみられている。
- 御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は少ない状態(8月129回、9月150回)。
- 9月17日20時頃から、主に島の西側で発生していると推定される火山性地震が増加。震度5弱を観測するなど、活発な地震活動がみられている。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。

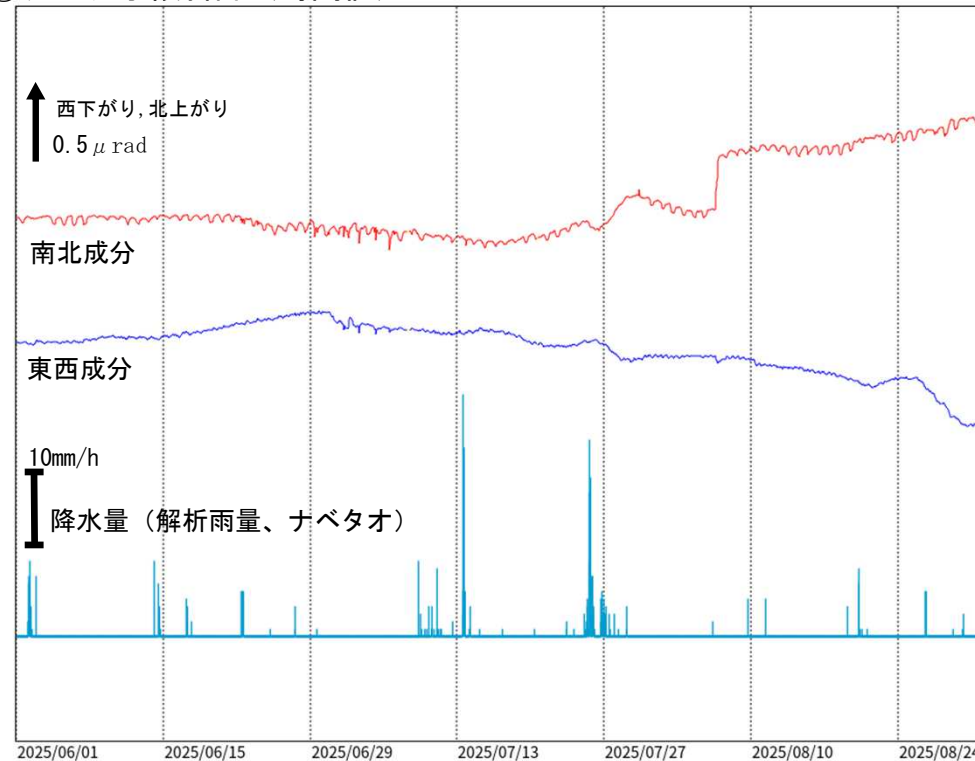
←諏訪之瀬島 火山活動経過図(2023年9月~2025年9月18日)

- 2024年8月29日から12月3日まで、寄木カメラ障害のため噴煙の最高高度が観測できていない可能性がある。
- 火山ガス放出量は噴火の直後に計測した場合、値が大きくなり、噴火の発生前に計測した場合には小さくなる傾向がある。
- トンガマ南西観測点の地震計の機器障害により、ナベタオ観測点または御岳南山腹観測点で計数している期間がある。

諏訪之瀬島 活動状況2

① ナベタオ傾斜計（時間値）

※傾斜データは潮汐・気温補正済み



地殻変動の状況

・ナベタオ傾斜計（御岳火口より南西約2.2km）では、6月下旬から西上がりの変動が認められる。

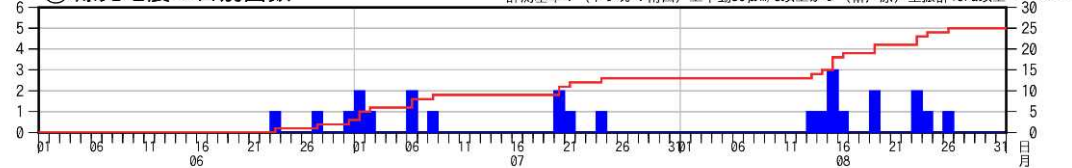
噴火活動の状況

・爆発の8月の月回数は12回（7月：10回）。

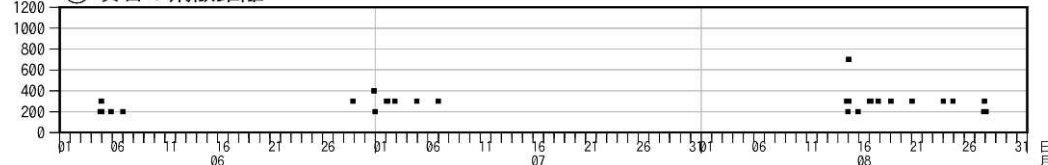
・弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約700mまで飛散。

② 爆発地震の日別回数

計測基準：（トンガマ南西）上下動30 μ m/s以上かつ（樺戸原）空振計10Pa以上



③ 噴石の飛散距離



←ナベタオ観測点の傾斜変動と噴火活動 （2025年6月～8月）

傾斜データは出水期を中心に降水の影響を受ける場合がある。
降水量は周辺の解析雨量の値から算出。

用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・大きな噴石：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・小さな噴石：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからでも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

■ 霧島山(新燃岳)

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

■ 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

■ 薩摩硫黄島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

■ 口永良部島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/509_level_kijunn.pdf

■ 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html